



【リアルな体験が子どもを成長させる： ② 青少年の体験活動等に関する実態調査】



2. 青少年の体験活動等に関する実態調査

読者の皆さんは、この表題の調査を知っているだろうか。念のためリンクをかけておく。「青少年の体験活動等に関する実態調査」(平成24年度調査)報告書

是非、この調査結果を読んで欲しい。以下、部分的な引用だが、気になる言葉が並ぶ。

「自然体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感が高い傾向にある」P109 より

「自然体験が豊富な青少年ほど、得意な教科として多くの教科を挙げている傾向にある」P122 より

「お手伝いを多くしている青少年ほど、得意な教科が多い傾向にある」P124 より

「お手伝いを多くしている青少年ほど、自立的行動習慣が身についている傾向にある」P128 より

いつのころから、子どもたちは机に向かう勉強を重視す

るようになったのだろうか。大人たちは子どもに机に向かう勉強をさせるようになったのか。放課後に塾なんかに行ったら、本当に机に向かう勉強のことだけで一日が終わってしまう。体をつかって、体、五感で感じて感得して成長していく体験というものが消えていく。暮らしの中からいつの間にか「火」が消えてしまったように、我々の生活の中で意識しないと消滅してしまうのかもしれない。勉強とその結果からわかりやすい成果(進学)といった、ある意味、効率性の良い教育を手に入れ、我々は何を失っているのか。

いま、失っていることを「体験活動」と称して意識させようとしているのが、この報告書ではないか。報告書に指摘されなくても、「体験活動」が、子どもの生活と成長に大きな影響を及ぼしているということは、我々自身の体験からも言える。

こんな背景を持ちながら、青少年体験奨励制度というのが立ち上がってきている。

東京学芸大学 教授 鉄矢悦朗

